

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

平成22年3月に完了した「中土手町環境整備事業」と併せて実施されていた、「都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業」が同年9月に完了したことにより、中心商店街の無電柱化と歩道融雪整備が終了し、快適で安全な歩行空間と新たな中心商店街の景観が形成された。また、今年度から、中心市街地での「都市と農村交流事業（産直マルシェ事業）」が定期的に行われるようになり、新たな賑わいの創出につながったものである。その他、中心市街地活性化協議会や各商店街、NPO等によるソフト事業も概ね計画通り実施されている。現在、基本計画に掲載する55事業のうち、9事業が完了、37事業が事業実施中、ハード事業など9事業が未着手の状況であるが、未着手の事業についても、平成23年度以降はほぼ計画通りに実施される見込みとなっている。

当市の中心市街地の状況は、歩行者・自転車通行量及び中心市街地観光施設等入場者数は前年度に比較して増加、中心商店街空き店舗率は減少しており、3指標ともに前回調査と比較して改善する結果となった。また、中心市街地外も含めて商業施設の出店・撤退等の動きはないものの、平成21年10月に閉鎖した駅前地区再開発ビルについては、いまだ閉鎖状態が続いているなどの課題も残っており、今後も基本計画掲載事業の着実な推進と、実効性のある新たな事業の検討を進めていくことにより、中心市街地の活性化の実現を図っていくこととする。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち	歩行者・自転車通行量 (平日と休日の平均)	20,464人 (H19)	25,000人 (H24)	18,226人 (H22)	③	③
	中心商店街空き店舗率	13.7% (H18)	8.5% (H24)	12.0% (H22)	①	①
歴史・文化と触れあえる観光のまち	中心市街地観光施設等 入場者数	1,820,440人 (H18)	2,125,000人 (H24)	1,706,720人 (H21)	②	③

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①歩行者・自転車通行量（平日と休日の平均）

事業が完了した中土手町商店街及び隣接する2商店街については通行量が増加しており、当該事業の効果が現われている。また、一部で減少している商店街もあるが、中心市街地全体では通行量が増加しており、未着手事業についても実施内容及び時期等も明確となってきたことから、引き続き事業の実施を推進していくことにより、数値目標は達成できるものと考えている。

②中心商店街空き店舗率

融資制度を活用した平成22年度の空き店舗解消数は計画どおり進捗している。また、中心市街地活性化協議会が実施した「中心市街地開業支援助成金」や、市独自の経済対策事業として実施した「店舗リニューアル支援事業」等によっても空き店舗の解消が見られていることから、引き続き事業の実施を推進していくことにより、数値目標は達成できるものと考えている。

③中心市街地観光施設等入場者数

平成22年12月の東北新幹線新青森駅開業に向けたイベントや街歩き商品の開発、市民及び団体によるおもてなし事業等により、中心市街地の観光案内施設における案内者が増加している。また、観光施設等全体の入場者数についても増加していることから、東北新幹線新青森駅開業の効果を最大限活用するための通年観光事業や、弘前城築城400年祭記念事業等と連携させながら各種事業を引き続き推進することにより、数値目標は達成できるものと考えている。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

「中心市街地観光施設等入場者数」については、平成21年度フォローアップにおいて「②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。」としていたが、平成22年度においては、街歩き商品の開発や年間を通じて観光客が中心市街地を回遊できるような魅力のある環境が整備されたとともに、弘前城築城400年祭の気運が地元はもちろんのこと、市外や県外でも高まってきていることなどの要因を踏まえ、「③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。」と見通しを変更したものである。

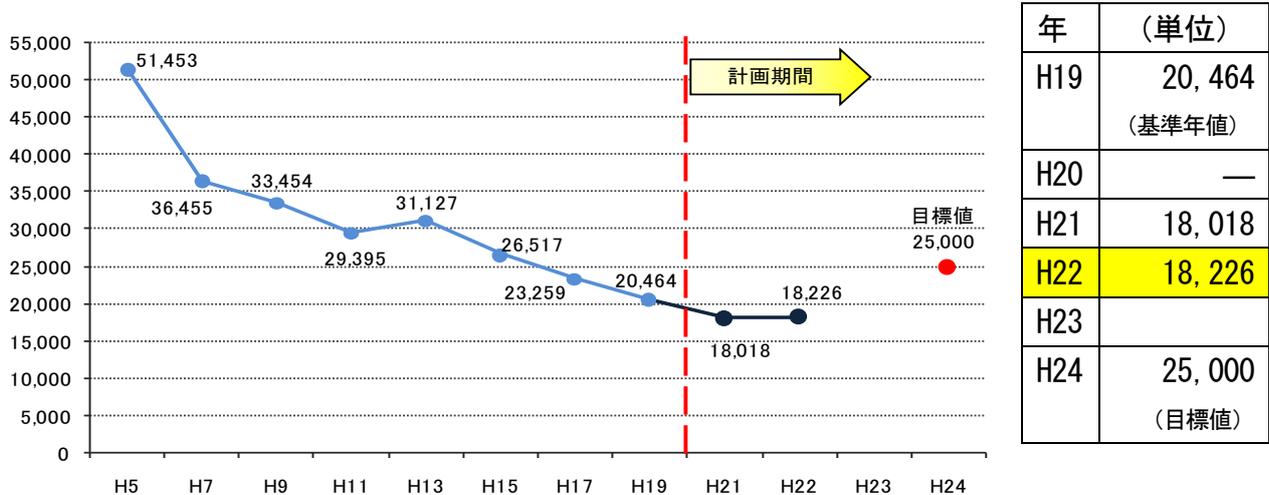
5. 今後の対策

今後も、目標達成に向けて各事業主体と連携しながら、基本計画掲載事業の着実な実施を推進していくこととともに、中心市街地活性化協議会や市の庁内組織等において、各事業の進捗状況及び目標指標に係る定期的な点検・評価を分析しながら、新たな課題等に対応した効果的な事業を検討することにより、中心市街地活性化の実現を図っていくこととする。

II. 目標毎のフォローアップ結果「歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち」

「歩行者・自転車通行量（平日と休日の平均）」※目標設定の考え方基本計画 P62～P69 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法；歩行者・自転車通行量調査（毎年度8月実施）

※調査月；平成22年8月最終金曜日・日曜日実施、10月取りまとめ

※調査主体；弘前市中心市街地活性化協議会

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、平日・休日7地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中土手町商店街環境整備事業（弘前中土手町商店街振興組合）

都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業（青森県）

事業完了時期	【済】平成21年度（中土手町商店街環境整備事業） 【済】平成22年度（都市計画道路3・4・7号弘前宮地線整備事業）
事業概要	中土手町商店街において、電線類地中化・歩道融雪整備事業（青森県事業）及び街路灯・ファサード設置事業（商店街事業）を実施する
事業効果又は進捗状況	夜間や冬期間でも安全に回遊できる空間が創出され、中土手町商店街における直近の歩行者・自転車通行量は前回よりも12.1%増加した。

②. 【追加】中土手町来街者サービス等拠点施設整備・運営事業（弘前中土手町商店街振興組合）

事業完了時期	【未】平成23年度から
事業概要	高齢者等の来街者サービスの実施拠点やコミュニティスペースの整備・運営及び定期的なイベント開催等のソフト事業を実施する
事業効果又は進捗状況	景気の悪化等に伴い、実施主体の変更も含めた計画内容等の再検討を行ったことから進捗が遅れているが、地元企業(団体)が新たな実施主体となり事業を実施する予定である。

③. 土手町コミュニティパーク整備事業（株式会社アップルコミュニケーションズ）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	情報発信機能及び学生・市民活動の交流機能、商業機能、多目的広場等を備え、多世代の地域住民や観光客等への利便性が高い施設を整備する
事業効果又は進捗状況	商業機能については平成 24 年 4 月のオープンを目指しており、交流機能及び多目的広場等については平成 24 年度中に整備を完了させる予定である。

④. 弘前中央食品市場再生事業（弘前中央食品協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度から
事業概要	市場内の空店舗が増加し、来客数も減少しているという課題を解消するために、消費者ニーズに対応したテナントミックスにより再生を図る。
事業効果又は進捗状況	これまで、事業主体と中心市街地活性化協議会が連携し、これまでと異なる若い世代をターゲットとした衣料品店や、飲食店の誘致を実現させた。また、産直マルシェ事業の開催場所としても活用しており、今後も、より実効性のある事業の推進を図ることとしている。

⑤. 津軽弘前屋台村整備・運営事業（津軽弘前屋台村協議会（津軽弘前屋台村株））

事業完了時期	【実施中】平成 20 年 9 月
事業概要	飲食屋台や多目的ホールを併設した商業施設を整備する
事業効果又は進捗状況	様々なジャンルの飲食屋台にはリピーター客が増えているほか、多目的ホール等では定期的なイベントや産直マルシェ事業なども開催されている。本施設前における直近の歩行者・自転車通行量は、前回よりも 12.8%減少しているものの、平日の通行量は増加しており、一定の効果は現われている。

⑥. 高等教育機関コンソーシアム交流プラザ整備事業（弘前大学他 5 大学）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」に参画している弘前市内 6 大学の共同交流施設の設置及び運営。
事業効果又は進捗状況	各大学の特色を活かした市民向けのオープンキャンパスや、学生の交流活動などの事業を、土手町コミュニティパーク（平成 24 年度整備予定）を主な拠点として実施する予定である。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

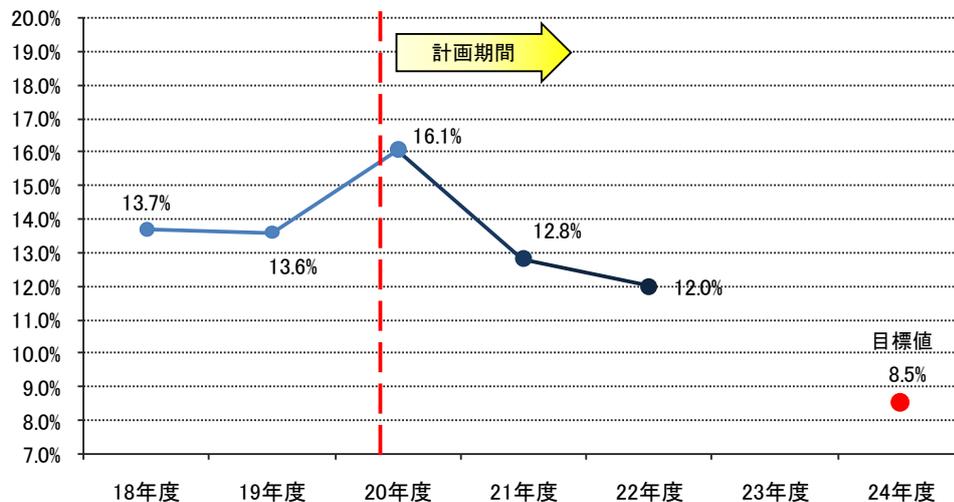
平成 21 年度の中土手町商店街環境整備事業の完了に続き、平成 22 年度には都市計画道路 3・4・7 号弘前宮地線整備事業が完了し、新たな歩行空間が創出されたことから、中土手町商店街及び隣接する 2 商店街の通行量は増加しており、土手町地区の回遊性は着実に向上している。また、中心市街地全体の通行量については、一部の商店街で減少しているものの、増加傾向にある。

一部事業に遅れが生じているものがあることから、現段階においては、中心市街地全体への効果は当初見込んでいたよりも低い状況であるものの、未着手事業についても実施内容及び時期等も明確となってきたことから、引き続き事業の実施を推進していくことにより、中心市街地全体の回遊性が向上し、数値目標は達成できるものと考えている。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち」

「中心商店街空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P69～P72 参照

1. 調査結果の推移



年	(%)
H18	13.7 (基準年値)
H19	13.6
H20	16.1
H21	12.8
H22	12.0
H23	
H24	8.5 (目標値)

※調査方法；中心商店街空き店舗調査（毎年度 12 月～2 月実施）

※調査月；平成 23 年 1 月実施

※調査主体；弘前市

※調査対象；空き店舗・空き地、中心市街地の 6 商店街

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗・空き地地権者意向調査（中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【済】平成 20 年 12 月
事業概要	空き店舗・空き地の所有者の状況及び活用についての意向を把握する調査の実施。
事業効果又は進捗状況	調査結果については「テナントミックス・商店街コーディネート事業」などの検討に活用されているほか、調査と併せて実施した空き店舗の活用支援等についての提案によって、一定期間の家賃減免等の優遇措置を講じ、新規出店が促されたなどの効果もみられた。

②. テナントミックス・商店街コーディネート事業（中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度から
事業概要	専門家によるアドバイスや新規出店者への開業時の販促経費補助等を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度から制度化した「中心市街地開業支援助成金」は、5 件の実績があり、店舗の認知度向上と顧客の獲得などに寄与している。

③. 空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置（弘前市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度から
事業概要	青森県の「空き店舗活用チャレンジ融資」に協調し、市が保証料及び利子を補助する。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は0件、22年度は2件の融資実績があり、これまで本制度を活用して2件の新規出店が実現している。本制度については、これまで実績が低調であったが、着実に制度が浸透されてきている。

④. 商業近代化資金融資の特例措置（弘前市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度から
事業概要	市の融資制度である「商業近代化資金」の融資条件に特例を設け、中心市街地区域内での店舗の新築、増改築のための資金の融資に係る利子を補助する。併せて、融資限度額の引き上げや資金用途の拡充を行う。
事業効果又は進捗状況	平成21年度は2件（新規出店0件）、22年度は3件（新規出店2件）の融資実績があり、これまで本制度を活用して2件の新規出店が実現している。また、店舗改装等では3件の活用があり、空き店舗の増加に歯止めをかけているなどの効果もみられる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

「空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置」及び「商業近代化資金融資の特例措置」を活用した平成22年度の空き店舗解消数は、それぞれ2店舗となっており、計画どおり進捗したものである。更に、「テナントミックス・商店街コーディネート事業」による中心市街地開業支援助成金や、市独自の経済対策事業として実施した「店舗リニューアル支援事業(※1)」により4店舗の空き店舗が解消したことから、引き続き事業の実施を推進していくことにより、数値目標は達成できるものと考えている。

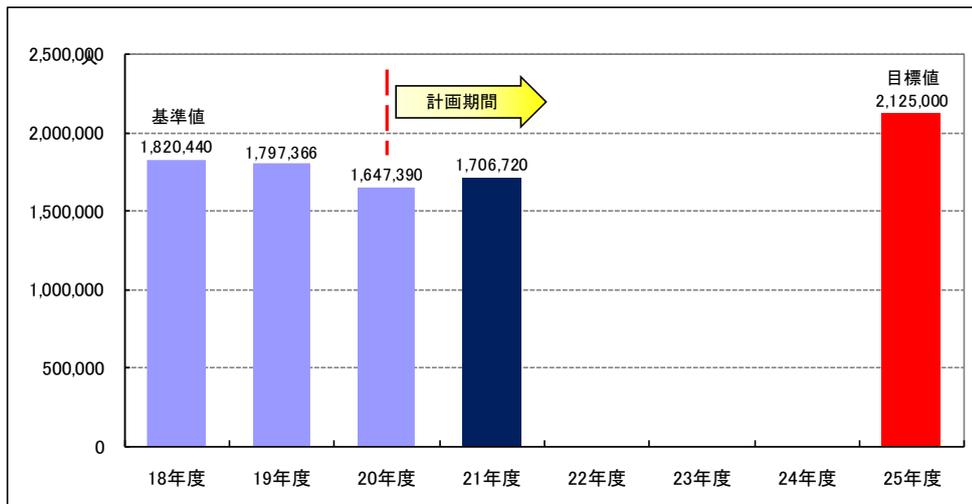
※1「店舗リニューアル支援事業」

中心市街地の空き店舗に新たに小売・サービス業を開業しようとする者を対象とし、店舗の改修に係る工事費、設備費、造作費の一部を補助する制度。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「歴史・文化と触れあえる観光のまち」

「中心市街地観光施設等入場者数」※目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	1,820,440 (基準年値)
H19	1,797,366
H20	1,647,390
H21	1,706,720
H22	
H23	
H24	2,125,000 (目標値)

※調査方法；弘前市商工観光概要

※調査月；4月～翌年3月

※調査主体；弘前市

※調査対象；中心市街地内の9施設（弘前公園、津軽藩ねぶた村、市立観光館、藤田記念庭園、百石町展示館、旧伊東家、旧岩田家、まちなか情報センター、駅前観光案内所）における入場者等

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 弘前公園（鷹揚公園）整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	弘前公園内の便益施設の整備、濠の護岸整備、園路・橋梁整備等を行い、観光資源としての価値を高めるとともに公園機能の充実を図る。
事業効果又は進捗状況	平成20～21年度において、導水施設、西濠護岸、橋梁架替(2箇所)、園路整備等を実施。平成22年度については、引き続き園路整備を行うほか、北の郭石段の発掘調査及び実施設計を実施。

②. 弘前城本丸石垣整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成39年度
事業概要	崩落の危険性がある弘前城本丸の石垣を積み直し、重要な歴史的文化的資源である弘前城を保全するとともに、工事を一般公開することにより観光資源としても活用を図る。
事業効果又は進捗状況	平成22年度までにボーリング調査等が終了し、今後、天守を移動させて石垣を修理することとなるが、この開園以来の歴史的な大事業については、来園者が作業状況（石垣の積み直し作業等）を見学できるようにする予定である。

③. 弘前公園周辺整備事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	弘前公園の周辺にある新寺構土墨緑地、追手門広場、旧第八師団長官舎、旧紺屋町消防屯所などについて、建物の修復や通路・修景施設を整備し、観光資源としての魅力度向上や新たな資源としての活用を図る。
事業効果又は進捗状況	「弘前市歴史的風致維持向上計画」に基づき、平成 22 年度は、旧第八師団長官舎、旧紺屋町消防屯所の保存修理に係る建物調査、耐震診断及び実施設計を実施。

④. 市立観光館リニューアル事業（弘前市）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	津軽地域の観光資源やまつり等の情報発信、伝統産業の P R、土産品の販売等の機能を担ってきた市立観光館の展示物や機器等をリニューアルし、機能を強化することにより観光施設としての魅力を向上させる。
事業効果又は進捗状況	現在、施設機能及び活用方法について、ハード面・ソフト面から見直しをしており、今後、事業内容及び手法について検討していくこととしている。

⑤. 都市と農村交流事業（弘前市、農業団体、中心商店街他）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度から
事業概要	当市の農村部で収穫された農産物等を中心市街地において販売する「産直マルシェ」の開催等。
事業効果又は進捗状況	産直マルシェ事業については、「軽トラ de 夕市」など中心市街地にある広場や店舗前等を会場として、平成 22 年度は約 50 回開催し、多くの市民や観光客で賑わった。

⑥. 新幹線活用対策事業（弘前市、(社)弘前観光コンベンション協会、商工会議所他）

事業完了時期	【実施中】平成 19 年度から
事業概要	平成 22 年 12 月の東北新幹線新青森駅開業効果により増加が見込まれる観光客の中心市街地における回遊を促進するため、様々な観光イベントを企画・実施するとともに、観光情報の発信や P R を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度は東北新幹線新青森駅開業の年となったことから、J R 弘前駅周辺を会場にカウントダウンイベントを実施したほか、街歩きツアー商品の拡充やライトアップ事業などの取り組みにより、中心市街地への観光客の誘客が図られ、賑わいをみせた。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成22年12月4日の東北新幹線新青森駅開業に向けたイベントや街歩き商品の開発、市民及び団体によるおもてなし事業等により、弘前公園等の観光施設以外の「まちなか情報センター」や「駅前観光案内所」での観光案内者が増加している。

弘前公園及び周辺観光施設で実施される事業については、大部分が実施中であることから、現段階においては、中心市街地全体への効果は当初見込んでいたよりも低い状況であるものの、引き続き、東北新幹線新青森駅開業の効果を最大限活用するための通年観光事業や、弘前城築城400年祭記念事業等と連携させながら各種事業を推進することにより、数値目標は達成できるものと考えている。